

平成27年 6月25日

なぜ点鐘か？

いよいよ最終例会になりました。来週からは、次の例会には何を話そうかを考えなくて済みます。

本日は、ロータリーについての雑学的な話を三つほどしたいと思います。

1. 第一例会には国歌を歌う。例会場には国旗を掲げる。

戦争中、ロータリーは発祥の地がアメリカであることから、ロータリーはアメリカのスパイではないかと嫌疑をかけられたり、フリーメーソンの組織だという疑いをかけられました。その疑いを晴らすために、国に対して忠誠を誓うことを証明する意味で、例会で国歌を歌い、それが習慣化したものです。当時は、毎例会ごとに特高が来て、サーベルをガチャつかせながら例会を監視したそうです。国旗も同様な理由で掲揚され、今日に至っています。アメリカ以外の外国では、殆どの国は、国旗を掲揚したり、国歌を斉唱するといった習慣はありません。アメリカは、移民の集まりなので、アメリカ人であるという自覚を持たせるために、国旗掲揚と国歌斉唱が盛んです。

2. ロータリーの会合は、点鐘で始まり、点鐘で終わる。

点鐘で始まり点鐘で終わる、これは例会だけではなくありません。年次大会、地区協議会、IM等ロータリーの会合はすべて同じです。

なぜ点鐘か？ については誰も疑念を差し挟まないようですが、どうも点鐘は日本独特のもののように思われます。外国では点鐘の代わりに“Call to Order”つまり“お静かに願います”の発言があって例会が始まり、あるいは発言に続くお祈りの後例会に入るというケースが多いようです。鐘を鳴らす場合も、食事が済んで幹事報告やスピーチが始まる前に鳴らすのが一般的で、木槌を叩くこともあるようです。いずれにせよ、開会閉会を鐘で告げるのは日本だけのようです。

ではこの鐘、いつ何処で？ というとまったく分かりません。一説によると1920年ころ東京クラブが使ったのが始まりで、あとは右に倣えならになったのではないかとされています。

日本人は大体、小学校以来鐘で行動することに慣らされているので（現在では「鐘」のある小学校はありませんが）、案外ロータリーの点鐘もケジメを付ける意味で日本人の習性にピッ

タシなのかもしれません。

3. 例会ではロータリーソングを歌う。

初期のシカゴロータリークラブは、会員同士の親睦と物質的相互扶助が盛んに行われていましたが、1907年にポール・ハリスは対社会的奉仕と拡大に活動方針を転換しました。さらに、1908年に入会しましたアーサー・シェルドンは奉仕の必要性を強調したため、シカゴクラブは親睦・互惠派と奉仕・拡大派に分かれて、毎例会は激論の場と化しました。そのとげとげしい雰囲気や和らげるためにハリー・ラグラスが始めたのが、歌を歌うという習慣でした。最初の頃は「Smiles」とか「My Hero」などの大衆的な歌が好んで歌われました。

日本では、例会や各種の会合が始まる前や閉会する前に、儀礼的にロータリーソングが歌われますが、本来はそのような歌い方をするのではなく、どんなタイミングで、どんな歌を歌おうと一向にかまわないようです。

宇部クラブも次年度から「四季の歌」が復活するそうです。

1年間「会長の時間」の話を聞いていただきまして、ほんとうにありがとうございました。